

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年6月29日（木）

2 確認箇所

瓦礫類一時保管エリアDD1及びDD2

3 確認項目

瓦礫類一時保管エリアDD1及びDD2の状況

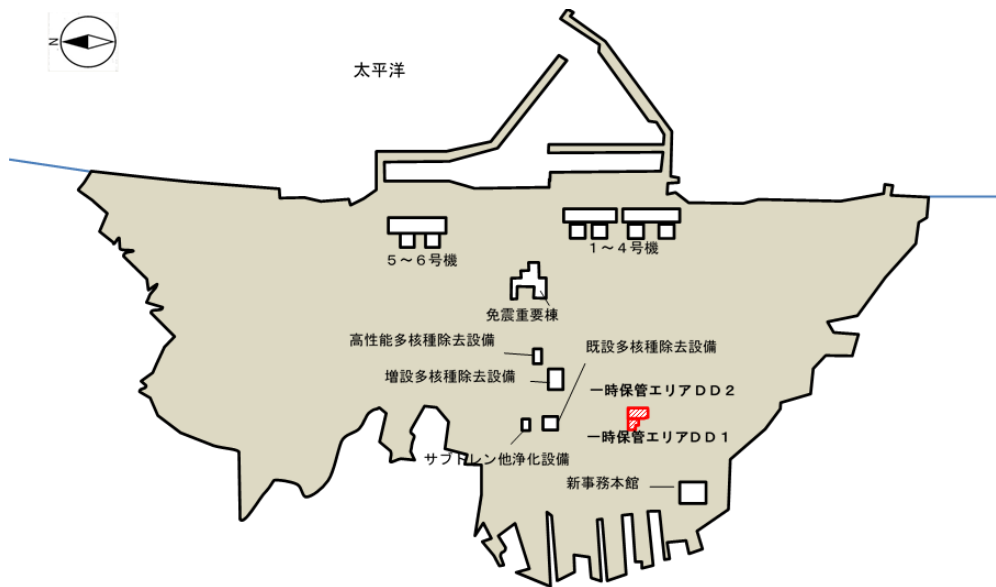
4 確認結果の概要

福島第一原子力発電所では、令和3年（2021年）、屋外に一時保管しているコンテナやノッチタンクから放射性物質が漏えいする事象が発生し、構内の瓦礫類一時保管エリア（以下「一時保管エリア」という。）において点検作業やシート養生の作業を行った。この影響で、一時保管待ちの廃棄物が増加し、実施計画に位置づけられていない仮設集積の瓦礫類が増加していたことが問題となっていた。

東京電力は、廃棄物管理の適正化のため、廃棄物の保管容量を確保することとしており、その一環として今年4月に一時保管エリアを追設した。この追設等により、一時保管待ちの仮設集積を解消し、作業上発生する最小限の仮設集積のみが運用される状態となったとしている。

今回は4月に追設された一時保管エリア4箇所のうち一時保管エリアDD1及びDD2の状況を確認した。（図1）（前回確認日：令和5年1月6日）

- 一時保管エリアDD1及びDD2の入口は、単管バリケードで仕切られており、バリケードにはエリア名が標示されていた。（写真1）なお、一時保管エリアDD1とDD2の間には明確な区切りはなく、両者は同じ入口から入るという運用だった。
- 前回確認時、一時保管エリアDD1及びDD2には、一時保管エリアとして運用される前であり特に廃棄物は置かれていなかったが、今回確認したところ、コンテナが2～3段積みで置かれていた他、重機が2台置かれていた。（写真2）（写真3）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
エリア入口の標示



(写真2-1)
DD1の状況(北側から令和5年1月6日撮影)



(写真2-2)
DD1の状況(北側から令和5年6月29日撮影)



(写真3-1)
DD2の状況（北側から令和5年1
月6日撮影）



(写真3-2)
DD2の状況（北側から令和5年6
月29日撮影）

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。